

## ■ 1 ■ どのような社会をめざすのか

ボランティアコーディネーターは、なぜ人々に社会参加を呼びかけるのでしょうか。なぜ、ボランティアや市民活動団体を支援するのでしょうか。また、組織やプロジェクトへのボランティアの参加をうながし、目標に向かってともに活動しようとするのでしょうか。それは、多くの人々の参加と行動によって実現していきたい“社会像”があるからです。一人ひとりの“市民”が自らもつ力を発揮し合っこそ実現できる社会、恒常的に改革をつづける社会、それを「市民社会」という言葉で言い表しても良いかもしれません。どのような社会をめざすのか。私たちがめざす「市民社会」の要素を表します。

- 1-① 一人ひとりの自由な意見、自分らしい生き方が尊重される社会
- 1-② 一人ひとりが自分の力を生かせる社会
- 1-③ 一人ひとりの「弱さ」を分かち合える社会
- 1-④ 一人ひとりが役割を持ち対等な関係で働ける社会
- 1-⑤ 多様な文化を認め合えるグローバルな社会
- 1-⑥ 人々が協同（協働）して社会課題の解決に取り組む社会
- 1-⑦ 人々が自由に社会づくりに参画できる社会
- 1-⑧ 結果のみでなく、決めるプロセスを大切に社会
- 1-⑨ 効率のみを優先させるのではなく、豊かな人間関係を創り出す社会
- 1-⑩ 自然環境を守り、命を受け継ぐことのできる持続可能な社会

## ■ 2 ■ どのようにボランティアをとらえるのか

ボランティアコーディネーターにとって何より重要なことは、ボランティアおよびボランティア活動の本質をどのように理解するかということです。ボランティア活動は、一般的に「自発性」「連帯性」「無償性」という言葉で説明されますが、コーディネーターがボランティア活動をどのようにとらえているのかは、日常のコーディネーションのあり方と質を左右する重要な要素です。ボランティアに対する私たちの認識を具体的に表現します。

- 2-① ボランティアは「市民社会」を構築する重要な担い手である
- 2-② ボランティアは自分の意志で始める
- 2-③ ボランティアは自分の関心のある活動を自由に選べる
- 2-④ ボランティアは活動に対して責任を持ちその役割を果たす
- 2-⑤ ボランティアは共感を活動のエネルギーにする
- 2-⑥ ボランティアは金銭によらないやりがいと成果を求める
- 2-⑦ ボランティアは活動を通して自らの新たな可能性を見いだす
- 2-⑧ ボランティアは活動を通して異なる社会の文化を理解する
- 2-⑨ ボランティアは活動に新しい視点や提案を示し行動する
- 2-⑩ ボランティアは安価な労働力ではなく、無限の創造力である

# ボランティアコーディネーター基本指針

— 追求する価値と果たすべき役割 —



## ■ 3 ■ どのようにボランティアに向き合うのか

ボランティアコーディネーターは、ボランティアや活動を希望する人々を、いかに支援し、協働することが必要なのでしょうか。どのようなスタンスでボランティアと向き合い、かかわりをもつべきなのでしょうか。ボランティアコーディネーターがボランティアと向き合う基本を具体的に表します。

- 3-① ボランティアの意志を確認し、希望を尊重する
- 3-② ボランティア一人ひとりの経験や関心、活動動機を尊重する
- 3-③ ボランティア一人ひとりのなかにある力や可能性を信じる
- 3-④ ボランティアに共感する気持ちを大切に
- 3-⑤ ボランティアの多様な意見や考え方を受容し、活かす姿勢を持つ
- 3-⑥ ボランティアとコーディネーターは対等であるという自覚を持つ
- 3-⑦ ボランティアとコーディネーターの役割の違いを認識する
- 3-⑧ 豊富な情報、社会資源のネットワークを用意しておく
- 3-⑨ ボランティアが新たな課題や活動に挑戦することを応援する
- 3-⑩ ボランティアと課題を共有し、ともに考える姿勢を持つ

## ■ 4 ■ どのようなボランティアコーディネーションを行うのか

ボランティアコーディネーションとは、どのような視点をもって、どのようなことが行われるべきなのでしょうか。ボランティアコーディネーターの役割と専門性について理解いただくために、ボランティアコーディネーションとは何かを具体的に表します。

- 4-① ボランティアが活動を通して、“市民”として成熟していくプロセスを大切に、それを支える
- 4-② ボランティアの動機やニーズ、得意分野などをていねいに聴き、活動の選択に役立つ情報や資源を提供する
- 4-③ ボランティアコーディネーター自身がビジョンや社会観を持ち、ボランティアや関係者に対してわかりやすく発信する
- 4-④ 人と人、人と組織を対等につなぎ、一方的な人間関係や上下関係などが生じないように調整をはかる
- 4-⑤ ボランティアの力が活かされるような環境をつくり、活動への意欲が高まるような工夫をする
- 4-⑥ 個々の活動、それぞれの団体の発展にとどまらず、他者と協同（協働）する意義に着目し、ネットワークづくりを推進する
- 4-⑦ ボランティア同士が問題意識を共有する場をつくり、双方向の議論によって互いが学び、あらたな課題の発見につなげる
- 4-⑧ ボランティアを社会づくりや組織活動・運営の重要な構成員として認識し、活動の企画や実施、評価に参加できるしくみをつくる
- 4-⑨ ボランティアの問題提起や提案を広く受けとめ、解決に向けてともに活動（プログラム）を開発する
- 4-⑩ 困難な課題を社会に開き、多様な人々が出会い、話し合う場をつくることによって、より良い社会の創造に向かう